

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-135	15-086	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Vital Signs: Alcohol-Exposed Pregnancies--United States, 2011-2013. Vital Signs:アルコールに暴露された妊娠—アメリカ合衆国、2011-2013 年		
執筆者		
Green PP, McKnight-Eily LR, Tan CH, Mejia R, Denny CH.		
掲載誌		
MMWR Morb Mortal Wkly Rep.2016 Feb5;65(4): 91-7. doi:10.15585/mmwr.mm6504a6.		
キーワード		PMID
アルコール、妊娠、胎児性アルコールスペクトラム障害		26845520
要 旨		
目的： アルコールは催奇形物質である。体内におけるアルコール暴露は生殖にとって不利な帰結と関連し、胎児性アルコールスペクトラム障害(FASDs)の原因になりうる。FASDsは生涯にわたる身体的、行動的、知能的な障害を呈するが、女性が妊娠中に飲酒をしなければ、完全に予防できるものであり、その実態について調査した。		
方法： アメリカ疾病予防管理センター(CDC)は2011年～2013年のNational Survey of Family Growthのデータを分析した。15～44歳の妊娠可能な非妊娠女性4,303人を対象にアルコールに暴露された妊娠のリスクを検討した。1ヶ月間に飲酒し、避妊を行っていない状態(本人が不妊でなくかつパートナーが不妊であると知らない場合)で男性と性交渉を持った場合をアルコールに暴露された妊娠のリスクがあるとした。		
結果： 15～44歳のアメリカ人女性のアルコールに暴露された妊娠のリスクは7.3%であった。アメリカでは1ヶ月間に約330万人の女性がアルコールに暴露された妊娠のリスクがあった。		
結論： 妊娠中の飲酒は低出生体重児、早産、先天性異常、発達上の障害と関連する。妊娠可能な年齢の女性に妊娠中の飲酒のリスクを周知すべきであり、また、妊娠を望まない場合は適切に避妊法を勧めるべきである。妊娠を望んでいる場合は避妊法を止めると同時に禁酒するよう勧めるべきである。アルコール乱用のスクリーニングは妊娠可能女性、妊婦を含むプライマリーケアにおけるすべての成人に対して、ガイドラインを越えた過剰な飲酒を行っている者の飲酒量を減量するためのエビデンスに基づいた手法として推奨される。		